

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大谷 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

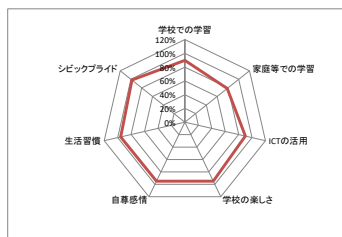
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回り、中上位置の分布が多い。特に「書くこと」については、好結果であり、記述式の問題についての正答率が高い。しかしながら、「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「言葉の特徴や使いかたに関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」	上回っている
	努力が必要な問題	「我が国の言語文化に関する事項」	

数学	全体的な傾向や特徴など	選択式・短答式の問題については、全国平均と同じくらいであるが、記述式の問題については、全国平均を下回っている。思考・表現・技能に関する数値も全国平均を下回っており、家庭学習を含め、定期的な復習が必要である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「関数」に関する問題・「資料やデータの活用」に関する問題	下回っている
	努力が必要な問題	「数と式」の問題・「図形」に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「友達関係に満足しているか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」との問いに対して90%以上の生徒が肯定的に回答しており、良好な人間関係を構築できているといえる。
・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」との問いに対して、肯定的に回答しており、生徒が粘り強く真剣に臨み、努力している姿が見受けられる。
・登校（月曜日から金曜日）に家庭学習に取り組んでいる生徒の割合が低く、改善するための方策の検討が必要である。
・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、全ての教科の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

今年度は全教科でICT機器を活用した授業推進に取り組んでいる。校内研究授業を度々行い、その都度協議会を開き、授業力向上に努めている。来年度も個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びの実践のため、学校全体で授業改善を進めていくことが必要である。

- 家庭生活習慣等に関する取組

「毎日の生活習慣・規範意識等」はしっかりと確立されているが、家庭学習の定着に課題がみられる。定期考査に向けての学習はできているものの、日々の復習については、不十分な生徒が多いように見受けられる。また、人の役に立つ人間になりたいと思う生徒はとて多いが、自分にはよいところがあると思っている生徒は平均以下なので、個々のよいところをほめ、様々な教育活動の中で自信がもてるような取組を随時行っていきたい。